

ココが知りたい! 原子力のクエスチョン

Q 原子力防災訓練とは、どんな訓練ですか？



A 静岡県は原子力発電所の事故に備え、静岡県地域防災計画に基づき、災害応急対応の習熟、関係機関の連携協力体制の強化、広域避難計画の検証等を目的に毎年原子力防災訓練を実施しており、今年は2月15日と16日に訓練を実施しました。

15日の訓練では、県や市町の担当者がオフサイトセンター等を集結し、浜岡原発4号機の事故で放射性物質が放出される原子力災害を想定して、情報伝達や状況判断の訓練を行いました。

16日には、地域住民の皆さまなど、約800名の参加を得て、バスによる避難や放射能測定といった実地の訓練を行いました。

静岡県の原子力防災訓練は、新しい取り組みや工夫を毎回取り入れて実施しています。平成29年度の訓練では、初めて避難経路所*を運営する訓練を実施しました。

静岡県や関係市町は、訓練の成果や反省を活かして、原子力防災の実効性を向上させていきます。

* 避難してきた住民に一旦集結してもらい、次に向かう避難場所の指定等を行う場所です。



▲ 2月15・16日の原子力防災訓練の様子
(左：オフサイトセンター運営訓練、右：避難経路所運営訓練)

浜岡原子力発電所の運転状況

前ページまでの環境放射能の測定を行った期間中(平成29年10月～12月)、浜岡原子力発電所の1号機及び2号機は廃止措置中であり、3号機、4号機及び5号機は運転停止中でした。

なお、平成30年3月26日現在、3号機、4号機及び5号機については施設定期点検及び地震・津波・重大事故対策等を実施しています。

「原子力だより」の内容についてご質問等がありましたら、下記までお寄せください。

静岡県原子力発電所環境安全協議会事務局

静岡県危機管理部原子力安全対策課

〒420-8601 静岡市葵区追手町 9番6号 TEL.054(221)2088 FAX.054(221)3685

E-mail antai@pref.shizuoka.lg.jp

ホームページアドレス <http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/kakushitsu/antai.html>

静岡県環境放射線監視センター

〒421-0411 牧之原市坂口 3520-17 TEL.0548(29)1111 FAX.0548(29)0335

ホームページアドレス <http://www.hoshasen.pref.shizuoka.jp>

Shizuoka

原子力だより

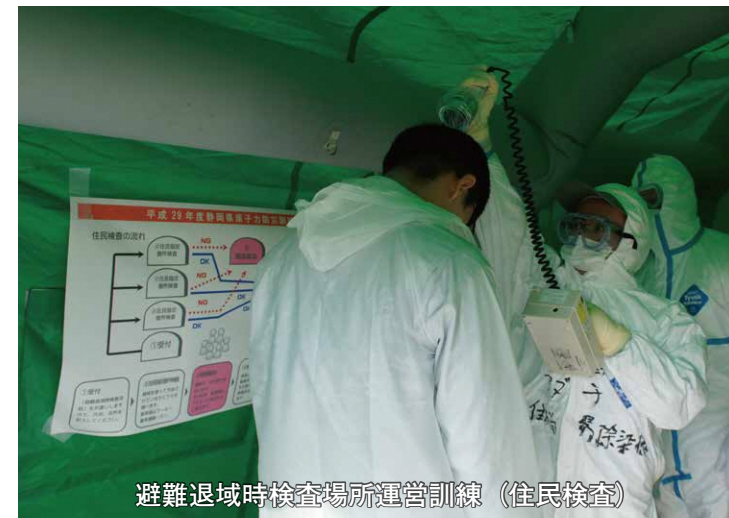
No.
176



オフサイトセンター運営訓練 (機能班活動)



オフサイトセンター運営訓練 (テレビ会議)



避難退域時検査場所運営訓練 (住民検査)



避難退域時検査場所運営訓練 (車両除染)

▲ 2月15・16日に、原子力防災訓練を実施しました。オフサイトセンター（牧之原市坂口）の運営訓練や、パーキングエリアを避難退域時検査場所として住民検査や車両除染を行う実地訓練など、さまざまな訓練を行いました。

平成29年10月から12月の環境放射能の調査結果

静岡県原子力発電所環境安全協議会では、浜岡原子力発電所の周辺環境の安全を守るため行っている環境放射能調査の結果を、四半期ごとにとりまとめ、「原子力だより」でお知らせしています。

平成29年10月～12月の調査結果では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。

今回の調査結果では、東日本大震災に伴う東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

(詳細は次ページ)

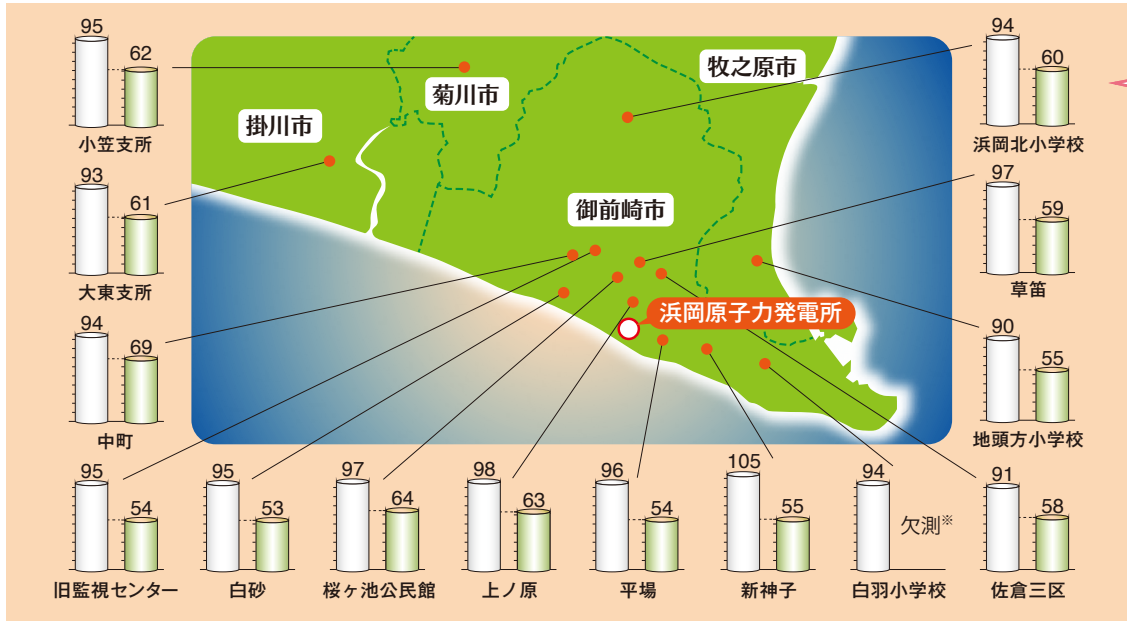
平成29年10月～12月の 浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査結果

浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められませんでした。
東日本大震災に伴う、東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故による人工放射性物質の影響が見られましたが、健康への影響は心配ないレベルでした。

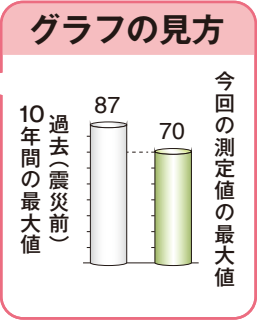
空間の放射線の測定

▶1時間当たりの放射線量(線量率)

単位：ナノグレイ/時



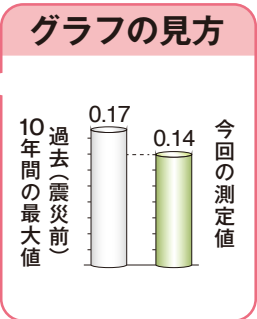
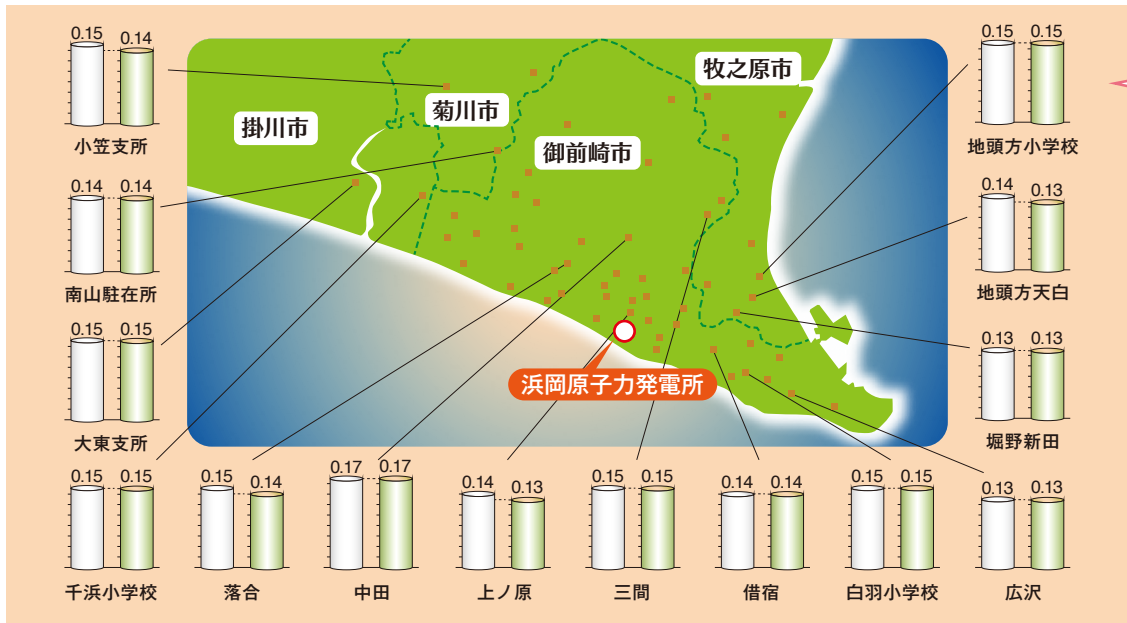
※白羽小学校は平成29年5月22日から測定局舎移設工事のため欠測



モニタリングステーション

▶3か月間の放射線量(積算線量)

単位：ミリグレイ/90日



モニタリングポイント

放射能調査に用いる単位

- グレイ (Gy) …… 放射線のエネルギーが物質に吸収された量(吸収線量)の単位
- シーベルト (Sv) …… 吸収線量を基に人体への影響を考慮して算定した線量の単位
- ベクレル (Bq) …… 放射能の量を表す単位

- 《参考》
- ミリ (m) …… 1/1,000 千分の1
 - マイクロ (μ) …… 1/1,000,000 百万分の1
 - ナノ (n) …… 1/1,000,000,000 10億分の1

農産物などの放射能の測定

浮遊塵や農水産物などについて、放射能を測定しました。平成29年10月から12月の間に測定した試料の一部※は、過去(震災前)10年間の最大値を上回りましたが、いずれも国の基準等を大きく下回るものでした。検出された放射能は、過去の核爆発実験などの影響によるものや東京電力㈱福島第一原子力発電所の影響によるものと推定しました。
※測定した61試料のうち、8試料が過去(震災前)10年間の最大値を超過しました。

▶代表的な農産物などの放射性セシウム2の測定値の最大値



今回の「空間の放射線の測定」および「農産物などの放射能の測定」の結果から、人工放射性物質による年間被ばく量は、最大限に見積もっても**約0.02ミリシーベルト/年**と推計されます※。この値は、公衆の年間被ばく線量限度である1ミリシーベルト/年と比べて十分に低い値です。

※「環境放射線モニタリング指針」平成20年(原子力安全委員会)から引用する摂取量に基づき推計
《参考》食品衛生法に基づく食品の放射性物質基準値…一般食品【100ベクレル/kg】・原乳【50ベクレル/kg】・飲料水【原乳10ベクレル/ℓ】

《参考》日常生活と放射線

私たちは、日常生活の身近なところで自然や人工のさまざまな放射線を受けて暮らしています。
これらの放射線の量に比べて、今回推計した年間被ばく量 約0.02ミリシーベルト/年は、とても低い量であるとわかります。

